

令和 4 年度 兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会事業報告（案）

1 総会の開催

開催日：令和 5 年 3 月 9 日（ホテルニューアワジプラザ淡路島）

概要：・徳島県の取組（文化分野）の報告

報告者 徳島県文化資源活用課 櫻木課長補佐

・兵庫県の取組（自然分野）の報告

・今後の世界遺産登録の方向性の検討

・「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録に向けた情報発信

報告者 兵庫県淡路県民局交流渦潮室 山内室長

・「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクトの成果

報告者 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会

藪田会長・坂江研究プロジェクトリーダー



協議会総会

2 幹事会の開催

(1) 第 1 回幹事会

開催日：令和 4 年 8 月 10 日（鳴門市うずしお会館）

概要：令和 3 年度事業の報告を行うとともに、令和 3 年度収支決算、令和 4 年度事業計画及び収支予算の決定を行った。

(2) 第 2 回幹事会

開催日：令和 5 年 1 月 20 日（兵庫県淡路県民局）

概要：令和 4 年度事業の進捗状況報告を行うとともに、令和 5 年度事業計画（案）及び収支予算（案）、協議会総会の実施内容等について検討を行った。

3 世界遺産登録に向けた学術調査

(1) 世界文化遺産登録に向けた学術調査

○第 1 回「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究会（令和 4 年 7 月 23 日）

文化側委員と自然側委員の情報交換を行うとともに、令和 4 年度に作成する報告書の内容について検討を行った。

○第 2 回「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究会（令和 4 年 9 月 17 日・18 日）

令和 4 年度に作成する報告書について執筆担当者が中間報告を行い、その内容について調査研究チームメンバーで検討を行った。

○「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査委員会（令和 4 年 11 月 7 日）

令和 4 年度の文化的調査について進捗状況を報告するとともに、令和 5 年度以降の調査内容について協議を行った。

【調査内容】

淡路島における国生み神話、近世以前の鳴門海峡を中心とした海上交通の状況、阿波・淡路の水軍と海城、「渦潮」と漁民・漁業技術の研究など、渦潮関連文化遺産に関する調査研究

○学術調査報告書の刊行

令和2年度から令和4年度にかけて実施した淡路島における文化遺産の調査研究成果をまとめた報告書「『鳴門の渦潮』と淡路島の文化遺産」を刊行した。

(2) 世界自然遺産登録に向けた学術調査

○第9回鳴門海峡の渦潮世界遺産登録学術調査委員会（令和5年2月22日）

令和4年度の学術調査結果について報告するとともに、今後の学術調査の方向性について検討を行った。

【調査内容】

① 鳴門海峡の渦潮地形成立過程、地史に関する調査及び分析

鳴門海峡の渦潮の自然的価値の証明において重要と考えられる海峡の地形成立過程および地史を明らかとするため、令和2年度に鳴門市内において掘削し、令和3年度に実施したボーリングコアの調査・分析の追加分析を行った。

渦潮の多様性を生む海釜地形の形成要因を検討するため、湿潤条件下における砂岩と泥岩の浸食耐性の違いを検証する現地調査を行った。

② 景観に関する調査及び分析

鳴門海峡の渦潮の美的価値の証明や保存計画策定において重要と考えられる鳴門海峡の景観の本質的価値を証明するため、令和3年度に特徴を明らかとした近代の鳴門海峡の絵葉書を対象として、絵葉書に捉えられた景観とその視点場の状況の把握及び現在の鳴門海峡の景観の本質的価値の継承状況の評価を行った。

③ 保護保全方策に関する調査

重要な視点場から見える風景内の、視覚的阻害要因の特定、整理、対策を検討するため、鳴門海峡において現地調査を行った。

④ 海外類似資産調査

ア ノルウェーとの連携

サルトストラウメン及び鳴門海峡の渦潮の動態やメカニズムを調査・分析し共通点や相違点の解明を行った。

＜鳴門海峡の渦潮＞

- ・海峡の概略地形の3D化を行い、潮流・渦の発生などの解析を行った。
- ・渦潮の再現確認と発生機構（位置とスケール）の解析を行った。

＜サルトストラウメンの渦潮＞

- ・海図を用いた点群データを作成し、地形の3Dモデルを作成した。
- ・令和2年度にノード大学と締結した覚書に基づく共同研究の促進を図るために10月にレターを送付し、連絡調整を行った。

イ スコットランドとの連携

鳴門の渦潮とコリーヴレックン海峡の渦潮を科学的な視点から比較するため、関連文献の調査や、情報収集を行った。

また、コリーヴレックン海峡との共同研究の可能性について、研究機関(ス

コットランド海洋科学協会)へ11月にレターを送付し、意見交換を行うとともに、スコットランド海洋協会のハウ教授、デール博士と1月末にオンライン会議を実施し、今後の共同研究の可能性や情報交換について協議を行った。

⑤ 世界遺産登録に向けた新たなアプローチの研究調査

ア 世界自然遺産登録基準viiiを満たした世界自然遺産に係る調査研究

世界遺産リストに掲載された218の自然遺産のうち、地球の歴史・地形地質の基準(viii)によって登録された93の資産について分析を行った。

また、世界ジオパークに認定された177地域のジオパークについて分析を行うとともに国内地形地質関係者等へのヒアリングを行った。

イ 関係機関との調整

IUCNの研究テーマ採択に向けて、IUCN関係者へ意見聴取を実施した。